



9月28日 南鳥島を視察



おがさわら

議会だより

第122号

議案審議	2
一般質問	3
委員会報告	5
編集後記	7
議員レポート	8

入院中の森下村長について、今定例会を欠席するとの報告がありました。平成27年度各会計決算の認定については、村長が入院中のために12月定例会まで継続審議としました。その他のすべての議案については全会一致で可決されました。

補正予算

- 一般会計
 - ・ 役場本庁舎自動ドアの修理 174万7000円
 - ・ 母島評議平運動場テニスコート照明取替 58万7000円
- 簡易水道特別会計
 - ・ 第2原水調整池整備工事 2665万6000円
 - ・ 沖村浄水場改良工事 865万2000円
- 下水道事業特別会計
 - ・ 母島し尿処理場機械設備更新工事費用 3583万8000円の減額

契 約

- 清瀬配水池建替工事の議決
予定価格5,000万円以上の契約は議会の議決が必要なので、下記契約を審議して議決しました。
契約金額 1億6740万円
契約の相手 株式会社ベルテクノ

報 告

- 出資法人の経営状況について
小笠原ラム・リキュール（株）の平成27年度決算報告及び平成28年度の事業計画の説明がありました。
一木議員 売上高の大幅減の原因は。
母島支所長 前年度の26年度に母島観光協会から900本の売り上げがあったこと。前年と比べ観光客数が約1,000人の減だったことも原因。
- 平成27年度小笠原村健全化判断比率及び資金不足比率の報告
小笠原村の財政状況が健全な財政状況であることが示されました。

条 例

- 非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
東京都の最低賃金引き上げに合わせて、村の非常勤職員の報酬額を引き上げました。
- 小笠原村保育の必要性の認定基準に関する条例（新規条例）の他、関連村条例の一部改正
内地の保育園に一時的に預ける時には、保育の必要性を新しい認定基準で、受け入れ先の保育施設に知らせる必要があるため、条例を整備しました。

その他

- 公有水面埋立てに対する意見
父島二見港内の古い検潮所を撤去し埋め立てることについて、議会は異存が無いことを決めました。

一般質問

清水良一議員



各施設での節電に対する具体的施策について

清水議員 昨年度の施設別電気使用量と金額は。

総務課長 村役場本庁舎 13万 kWh、340万円、情報センター 12万 kWh、270万円、地域福祉センター 17万 kWh、460万円、小笠原村診療所 43万 kWh、660万円、扇浦浄水場 16万 kWh、350万円、父島し尿処理場 27万 kWh、530万円、クリーンセンター 35万 kWh、730万円、小笠原小・中学校 13万 kWh、360万円、母島小・中学校 14万 kWh、340万円。

清水議員 施策と温度設定は。

総務課長 照明や空調等ために節電。設定は 27 度で、情報センター機械設置箇所は 23 度。

村民課長 事務室や会議室等 27 度以上、デイルームは随時設定。指定管理者と努力する。

医療課長 父島診療所、複合施設で節電。執務室 27 度、診は 25 度程度で適宜対応。

建設水道課長 扇浦浄水場は太陽光発電を併用。父島処理場は補修中のため電気使用量減。父島クリーンセンターも削減に努める。執務室は 27 度、設備機械や制御盤は 26 度前後。

教育課長 教育環境を保ちつつ努力。設定温度の改善検討。

村内交通網の将来ビジョンについて

清水議員 ①ガソリン使用量推移は。②公共交通等利用推進を。③村営バス利用促進を。④サンセットを組み込んで。

環境課長 ①平成 23 年度以降微増。②村民だよりで広報。

産業観光課長 ③村民の利用促進策を検討。④村営バスの利用促進に資するならば検討。

選挙実施への対応について

安藤議員 ①住民への広報はどのように行われたのか。②一步踏み込んだ選挙広報を。

総務課長 ①選挙ごとに村民だよりで案内している。特に不在者投票は、村民だよりの選挙特集号で手続のタイムリミット等も広報している。②問い合わせには懇切丁寧に説明している。ホームページにも村民だよりを掲載。引き続きこのような形で対応する。

防災訓練に伴った津波等緊急避難について

安藤議員 ①昨年、ハザードマップの件で質問した。この 1 年の取り組み、進捗状況は。②解決すべき事案を踏まえて避難の検討をすべきでは。

総務課長 ①本年度の防災訓練には約 800 人が参加。指摘された課題等は、精査して改善する。本年 5 月に小笠原村津波避難計画を作成。設定、指定した避難経路や津波緊急避難路の標識設置を具体的に検討する。②近地津波は二十数分で来襲の見込み。課題もあるが、防災力向上に努める。

おがさわら丸に対する島民の意見集約について

安藤議員 わかりやすく、利用しやすい島民の足の確保が重要だ。村の対応や、意見交換の場を設けるのかを伺う。

総務課企画政策室長 村民目線で、都度小笠原海運に改善してもらっている。基本的事項の広報の周知徹底も改めて申し入れたい。小笠原航路検討委員会や母島のアクセスを考える会で改善要望や意見の集約、整理をし、適切な時期に小笠原海運に要望したい。



安藤重行議員

稲垣 勇議員



蝙蝠谷農業団地の村の取り組みについて

稲垣議員 農事組合法人が土地賃貸契約を解除し、今月末で都へ土地が返還されたようだ。活用へどう進めているか。

産業観光課長 本年3月末に土地賃貸借契約が解除され、今月末までに都へ引き渡すこととなっている。その後の活用は事業主体の都が検討中だ。国の補助を受けて整備したので、国土交通省とも協議中。

稲垣議員 4月の農業委員会で、何とか早く、一般農家にも貸し出しできる形で村もかわってほしいと要望が出た。

産業観光課長 硫黄島旧島民対策としての配

慮は残しつつ、早く農業振興に資するよう都に申し入れている。都からは、村への相談や資料提供等の依頼があり、積極的に協力する。
稲垣議員 硫黄島旧島民対策事業の冠をつけたままで一般島民、農業者が使える方向で都と考えてほしい。

産業観光課長 都に打診しているが、都が事業主体で国の補助を受けており、一般農業者に貸せるか否かの判断は、国と都の協議結果を待ちたい。

稲垣議員 都の行政部長と一緒に蝙蝠谷農業団地を視察しているが、そのときの感触は。

村長職務代理者副村長 早く小笠原の農業振興に資するよう使ってもらいたいという思いで、都に伝えてきたが、どうやって個人農業者に貸していくかという課題がある。一刻も早く農業振興に資するよう村は動いている。

稲垣議員 村長には、農業振興のためできるだけ早く解決する方向で、動いてほしい。

村長職務代理者副村長 村の総論は確立した。各論に進みたい。協議は逐次報告する。

池田 望議長出張報告



- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| 6月29日 | 新おがさわら丸披露会出席 |
| 6月30日 | 全国離島振興協議会へ、情報・意見交換 |
| 7月1日 | 第90回小笠原諸島振興開発審議会出席 |
| 7月26日 | 環境省へ、小笠原諸島世界自然遺産の保全に係る母島の体制強化に関する要望活動 |
| | 総務省へ基地交付金に関する要望活動 |
| | 防衛省へ、特定防衛施設周辺整備調整交付金に関する要望活動 |
| | 東京都町村議会議長会臨時役員会出席 |
| | 平成28年度第1回臨時総会出席 |
| | 東京都町村会・東京都町村議会議長会合同会議出席 |
| 7月27日、28日 | 「愛らんどリーグ2016」・島じまん開会式等出席 |
| 7月29日 | 東京都へ、平成29年度東京都予算編成に対する要望活動 |

世界自然遺産

主な環境保全対策の状況と対策

(1) 兄島 グリーンアノール対策

28年8月末時点で、捕獲数は2万4024匹。引き続き探索、捕獲を継続するとともに、防除技術の開発も実施している。また、10月からは兄島の最北西部と弟島へのアノールの侵入を防ぐ新たな柵の設置工事も開始予定。

清水副委員長：アノールトラップにはほかの生物もかかっているか。

環境課長：27年度は、オガサワラトカゲやオガサワラゼミ等がかかってしまった。違う生物がかからないように工夫したり、影響評価は行っている。

(2) 兄島 ネズミ対策

8月6日～20日の間、兄島、人丸島、瓢箪島で、殺鼠剤約18トン分の空中散布を、ヘリコプターで63回、ドローンで47回実施した。

環境への影響の緩和策として、ドローンの使用、アカガシラカラスバトの一時保護、トンボ類生息域からの殺鼠剤除去などの対策をとった。

安藤委員：一度根絶したと思われていた西島でまたネズミの生息が見つかった。今後の対策は。

環境課長：今回は兄島を優先して実施したが、ほかの島もあわせて小笠原諸島全体で対策を取っていく必要がある。

(3) 母島 ツヤオオズアリ対策

27年2月に、外来のツヤオオズアリの母島への侵入を確認した以降、27年度は、母島における分布調査、ベイト剤による駆除試験を南崎、北港で実施した。

28年4月から6月に関係行政機関、民間関係者により南崎、乳房山で駆除作業を実施。8月からは環境省による駆除作業（南崎）を継続している。

稲垣委員：だいぶ良い結果が出ているようだが、今後の展望は。

環境課長：南崎はかなり広がっている。南北から範囲を縮めていく作戦に取り組む予定。

その他、世界遺産センターの運営概要の説明、6月に行われた世界自然遺産登録5周年イベントにおいて、国内自然遺産4地域の8町村による「世界自然遺産地域ネットワーク協議会」の立ち上げが宣言されたことが報告されました。総務委員からはこの協議会でどのような活動をしていくのか村執行部の考えを問う質問や意見が出されました。

平成29年度小笠原諸島振興開発事業概算要求

道路改良工事、沖村浄水場の建設工事、医療機材の購入費などで、要求額は前年比1.18倍となり、事業費の総額は約9億7000万円となりました。

硫黄島調査特別委員会 9月8日

杉田一男委員長 安藤重行副委員長

遺骨収集事業

戦没者遺骨収集法の施行により、厚生労働省は一般社団法人「日本戦没者遺骨収集推進協会」を遺骨収集活動を行う法人として指定しました。同協会は、国内外で遺骨収集活動をしてきた12の構成団体と共に遺骨収集を進めます。硫黄島協会、小笠原村在住硫黄島旧島民の会が構成団体に含まれています。

10月からアメリカ国立公文書館の資料を調査し、遺骨収集作業を予定している場所について説明を受けました。

一木委員 以前にアメリカの国立公文書館で資料調査を実施し、その結果たくさんのご遺骨が見つかった経緯がある。今回再び資料調査をする背景は。

総務課長 以前に実施した資料調査で大きな成果があったことから、今回ほかの埋葬地を特定するためにアメリカ、オーストラリアの公文書館で調査をする。

訪島事業

安藤副委員長 参加者が硫黄島から持ち帰った果物などに危険な虫が付着しているなどの声があった。また、旧島民の持ち出しにも注意が必要と思うが。対策は。

環境課長 出発前に環境課から、外来種対策として旧島民の方以外は草木等の持ち出し禁止とお知らせしたが、徹底しきれなかった。さらにわかりやすくルールを決め、来年度は周知徹底を図りたい。

小笠原航空路開設推進特別委員会 9月9日

一木重夫委員長 清水良一副委員長

今年度村が実施する航空路の調査の進捗状況のほか、6月定例会以降の航空路開設に関する動きと今後の対応について説明がありました。

杉田委員 航空路の開設を今後さらに前進させるために、景観を壊さない状態で滑走路をつくる前提でこの調査を進めてもらいたいが、村執行部の考えは。

企画政策室長 村は当初から景観を含めた環境を守っていくという姿勢で臨んでいるところ。

池田議長 返還50周年の2年後をめどに、現在3つある航空路案が一つに絞られるとの認識でよいか。

総務課企画財政室長 東京都、国、村それぞれが2年後に向け、それぞれの立場で議論、検討を進めている。

平成28年第4回定例会会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
12月7日（水）	午前9時	平成27年度決算特別委員会	
12月12日（月）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
12月13日（火）	午前9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
12月14日（水）	午前9時	平成27年度決算特別委員会	
	午後2時	本会議	議案審議、決算採決等

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。
またテレビ11チャンネルで中継放送がご覧になれます。



議会のことを
もっと知りたいな♪

会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。

- 村役場議会事務局
- 地域福祉センター図書室
- 母島支所
- 母島図書室で閲覧できます。



また、パソコンやスマートフォンなどで見ることもできます。

小笠原村公式サイト→議会事務局→会議録で 検 索

編集後記

連日、地方議員による政務活動費の不祥事が報道されています。しかし、小笠原村議会では政務活動費の支給がないのでこの問題は起こりえません。議会出席の日当も廃止しました。

村議会が改選する4年に一度、防衛省に南鳥島の管内視察の支援をしてもらっています。天候にも恵まれて今回で2回目の視察を実現できました。

小池都知事がオリンピック・パラリンピックのフラッグツアード、父島と硫黄島を訪問して下さいました。小池都知事は航空路の必要性を検討する考えを示しました。硫黄島では戦没者の御霊に手を合わせていました。

小笠原村議会の活動は多岐に渡ります。紙面の都合で一つ一つ詳細にお伝えできないのが残念。町中で村議を見かけたら「あれはどうなの？これはどうなの？」と、ぜひお声かけください。

（一木）

★議会だより編集委員

一木重夫 安藤重行★

南鳥島の墓参と慰霊

安藤重行

南鳥島の歴史の中で、特筆すべきことがある。文献などにも記載されてきたことだが、19世紀後半、世界の各国がクジラの脂を取るためこの島を訪れていたが、小さな島で、標高も低かったため、自国の領土という宣言がされなかった経緯がある。

明治12年頃から日本人の上陸者が現れ、1896年頃その中の水谷新六が、アホウドリなどの楽園（無人島の営巣地）であったために、鳥糞が堆積されて固まったことからリン鉱石及び羽毛を資源（グアノ）の宝庫として目をつけ、母島から労働力として23名を移住させ、その後も53名が移住したとある。

大きな台風等で甚大な被害を受け、飲み水の確保にも苦勞をしていたようで、赤痢が発生し死亡した島民19名の一部の方々のお墓が建っていた。「古川清一之墓」以外は誰が埋葬されたのか等、まだ分らない。この母島村民の方々の墓参が南鳥島訪島の目的の一つである。献花と哀悼の心を捧げてきました。ご遺族でも行けない場所と実感しながら！

太平洋戦争に突入。その当時の隊員の方が書いた手記では、3000人の隊員が住み、1400名が亡くなっているとあったが、諸説

あるようだ。おそらく当時の隊員たちの憶えが正しいと思うと、NHKで言っていた2400名が復員したとすれば、600名の方々が亡くなったのではと思われた。戦死71名・負傷177名・栄養失調等戦病死200名が含まれる。慰霊碑「忠魂の碑」が建立されている。全員で心より哀悼の心を捧げてきました。

まだまだ、戦争は終わっていないのだと実感したことを受け、いま国土交通省が設置している岸壁ができたなら、ぜひ村民と戦没者ご遺族の方々の墓参を計画することが、私たちに課せられた課題として、何らかの方法を検討していきたいとの思いが沸き上がりました。



旧島民墓地にて様々なご苦勞に思いを巡らせる



母島島民のお墓参り

国境離島の拠点づくり

一木重夫

南鳥島の排他的経済水域は日本国土面積よりも広く、国境離島として国家プロジェクトが実施されています。その広大な排他的経済水域の活動拠点として、160mの岸壁工事が進んでいました。不発弾処理や台風の影響も受ける中での難しい工事と聞いています。

南鳥島周辺海域にはレアアース等の海底鉱物資源がたくさんあり、岸壁はその拠点として期待されています。もし資源開発が商用化されれば、小笠原村に鉱産税として村税が入ってくる可能性があり、宝の島になるかもしれません。その他にも、サンゴ増殖の技術開発、新素材の開発、教育や観

光の場としての活用、海洋保護区の設定等による生態系の適正な保全などへの利活用が検討されています。

私達は防衛省の案内でこの岸壁を訪れ、国土交通省から岸壁工事の説明を受けました。なお、南鳥島に港を整備するにあたり、検疫や防疫のソフト機能も必要なのではないかとのこと。外国船の緊急避難的な寄港も想定されるため、検疫や防疫の役割はとても重要です。ハードとソフトの機能を整備して、より安心・安全・便利に南鳥島が小笠原村民・国民のために利活用できるよう、岸壁の早期完成を私達は希望しています。



岸壁を視察



南鳥島岸壁の上空写真

上空からの三宅島



南鳥島がヤシとサンゴの白い島なら三宅島は火山の黒い島だった。

10月2日小笠原村議会議員団は三宅島へ東京島しょ町村議員セミナーへ参加するため調布飛行場に集まっていた。

飛行機はドルニエ228と言う19人乗り。50分のフライトを終え火山の島三宅島へ到着。

三宅村は1970年には4800人いた人口が2回の噴火の影響もあり減り続けているそうだ。5校あった小中学校も現在では1校となり使われなくなった村の施設がたくさんある。小笠原村と違い土地や施設に余裕があるのだが別の問題も多そうだ。

縄文時代から人が住んでいたそうで、たくさんの神話や伝説が残り伊豆諸島でもっとも神社の数も多い。



富賀神社 伊豆諸島で一番神社の数が多い

さて、本題のセミナーは、伊豆諸島、小笠原の町村議員41名が集い田村 秀新潟大学教授の講演「離島に生きるための地方創生と議員が果たすべき役割」から始まり、島内視察、そして懇談会では各島の情報交換をしてきた。講演で印象に残った言葉は、「東京都であることのメリットを最大限生かせ」。島内視察では、廃校になった学校の体育館を使いレクリエーションセンターとしてボルダリング（フリークライミング）の施設を作っていた。三宅島はたくさんのゲレンデがあり、NHKでもボルダリングの聖地と三宅島を紹介していた。沖山三宅村議がかなり力をいれており、東京オリンピックの競技にもボルダリングが採用されたため、なんとか三宅島でと、活動していることを熱く語ってくれた。

同じ島というフィールドを持っているけれど、それぞれの島はかなり違った特徴や問題を抱えていることを認識することができた。とくに三宅島の議員との話の中で避難生活の辛さ、そして島生活の良さを改めて感じた。私も島で生活できる幸せをもう一度感じさせてもらえる時間だった。

翌日再会を約束して三宅島を後にした。



ボルダリングに挑戦！